

作業補足シート

4 : 1 5

| 分野 | 端末処理 | 作業名 | 4 心テープファイバの融着接続 |
|--------------|--|-----|-----------------|
| 目的 | 4 心テープファイバの融着接続を行う。 | | |
| 工程 | ポイント | | 時間 (再生位置) |
| 1. ファイバの清掃 | <ul style="list-style-type: none"> 補強スリーブの内側に埃やゴミが付着しないようにあらかじめ融着するファイバを 1m 程度、キムワイプなどの毛羽立たない布で清掃する。 | | 0 : 3 0 |
| 2. 補強スリーブを通す | <ul style="list-style-type: none"> 予め補強スリーブを挿入しておく。 スリーブの挿入忘れ防止のため、スリーブを通す側（左右）を決めておく和良好的。 | | 0 : 5 3 |
| 3. ホルダにセット | <ul style="list-style-type: none"> 心線の先端をホルダから約 40mm 出した状態でセットする。 テープファイバの場合、1 番心線が奥側になるように向きに注意してセットする。 | | 1 : 1 1 |
| 4. 被覆の除去 | <ul style="list-style-type: none"> 心線の被覆をホットジャケット・ストリッパで除去する。 ホットジャケット・ストリッパにファイバをセット後、緑色の LED が点滅から点灯に切り替わったところでホルダ台を引く。 使用後は、毎回必ずホットジャケット・ストリッパを清掃する。 | | 1 : 2 7 |
| 5. ファイバの清掃 | <ul style="list-style-type: none"> ファイバに清掃のムラができないよう、ファイバを持つ手を返しながら清掃する。 心線を清掃後、アルコールにより付着したファイバのまとまりをとるために指の腹で払う。 | | 1 : 5 6 |
| 6. ファイバのカット | <ul style="list-style-type: none"> ファイバをファイバカッタにセットし、カットする。 ホルダがしっかりとファイバカッタの台座部に突き当たるようにセットする。 | | 2 : 2 0 |
| 7. 融着機へセット | <ul style="list-style-type: none"> 融着機の蓋は、埃や塵などが入らないよう、ホルダをセットする直前まで閉めておく。 ファイバカッタにホルダをセットする際、ファイバの先端が触れないようにホルダの薄露側からセットする。 反対側のファイバについても同様に作業を行い、融着機の蓋を閉める。 | | 2 : 3 4 |
| 8. 融着接続 | <ul style="list-style-type: none"> 画面の両サイドにファイバの心線が見えていることを確認しセットボタンを押す。(4 つの心線が左右で見えているかを確認。) アラームが鳴った場合は、ファイバが V 溝に収まっていないな | | 3 : 0 3 |

| | | |
|---------------|--|---------|
| | <p>どによる接続エラーであるため、原因を取り除き再度セットする。</p> | |
| 9. ファイバを取り外す | <ul style="list-style-type: none"> ・ あらかじめ補強スリーブ加熱補強部を開けておく。 ・ ホルダの蓋を開けてファイバのみを取り外す。 ・ ファイバを取り外す際には、ファイバが弛まないよう常に左右水平方向にテンションをかけながら外す。 ・ 以降、加熱補強部へスリーブをセットするまでテンションをかけ続ける。 | 3 : 3 2 |
| 10. 補強スリーブの加熱 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ファイバが弛まないよう常にテンションをかけた状態でスリーブ加熱補強部へセットする。加熱補強部の蓋は、テンションをかけた状態であれば、スリーブをセットすると自動的に閉まる。 ・ 約 1 分程度で加熱が完了するので、その間に次のファイバを融着するための準備をする。 | 3 : 4 6 |
| 使用器具 | 融着接続器（古河電工 S123M4II）、ファイバカッタ（古河電工 S326）、ホットジャケット・ストリッパ（古河電工 S218R）、ファイバホルダ（古河電工 S712 4R/L）、無水エタノール、キムワイプ、綿棒 | |
| 使用材料 | 4 心テープファイバ、補強スリーブ（古河電工 S924） | |
| 最終更新日 | 2022/02/15 | |